

# 汗に 溺れる



月刊カラおそ  
其の八 唐大

成人向





扇風機は暖かい空気を  
かき混ぜるだけで  
俺たちの熱を冷ます役には  
立っていない





は...

は...

あ

熱と暑さと快感で  
赤く染まる大蔵の肌



は...

オレの腹の上で水溜りとなり  
やがてそれは海になり  
オレは溺れる



は...

はあ

大蔵が上で腰を揺らすたび  
ポタポタ汗の雨が降り注ぐ

ふ...あつ...

は...

は...

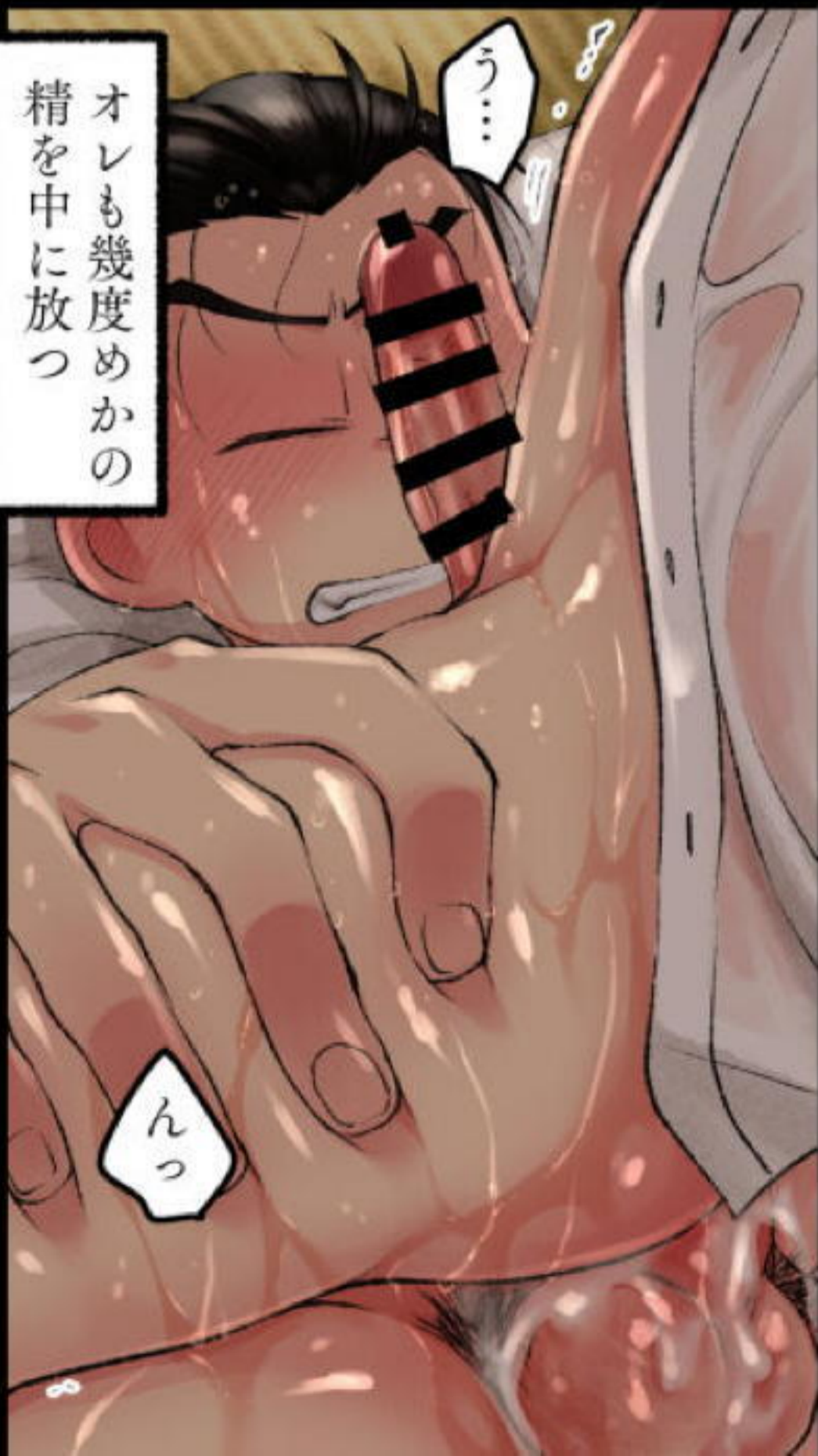
は...





あっ…あ

なんて扇情的なながめだろう



オレも幾度めかの  
精を中に放つ

う…

んっ



何度めかの絶頂で  
出すものもないまま  
大蔵がまた気をやった

は…  
は…

は…

は…





誘われて事に至って以来

いつだったか  
雨の日のバス停で



はは  
！  
！  
！

オレと大蔵は  
会うたびに  
体を重ねるよう  
になった



っん



っん





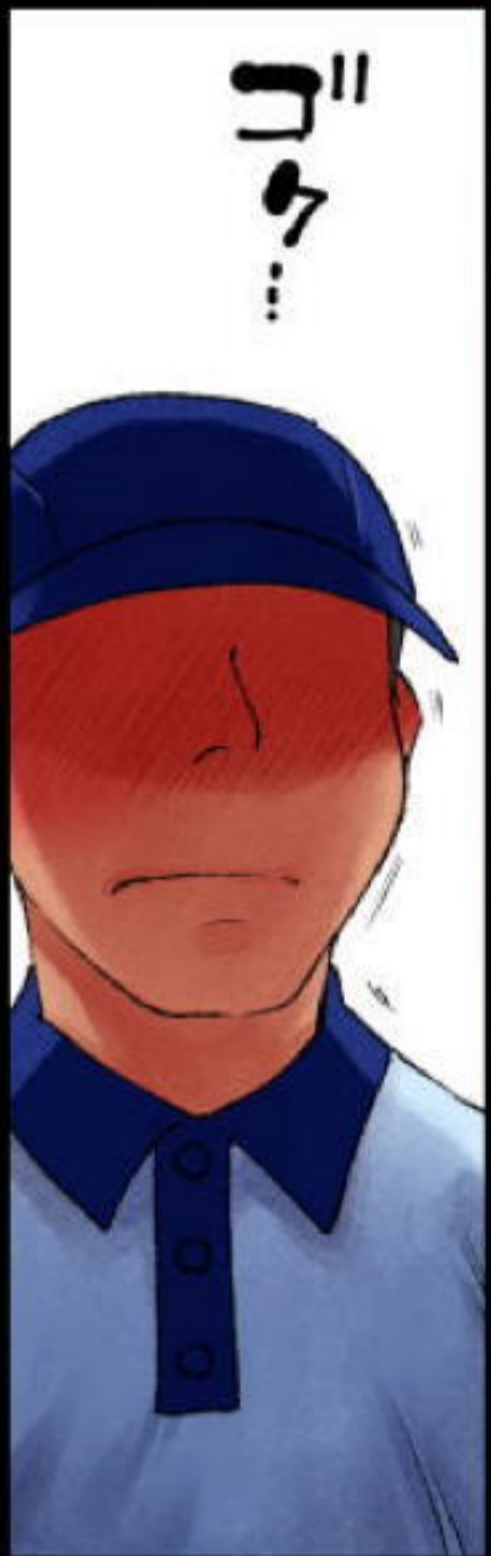








どうも  
お疲れ様  
今日も  
あつついねえ



フタ...



はい  
ハンコ



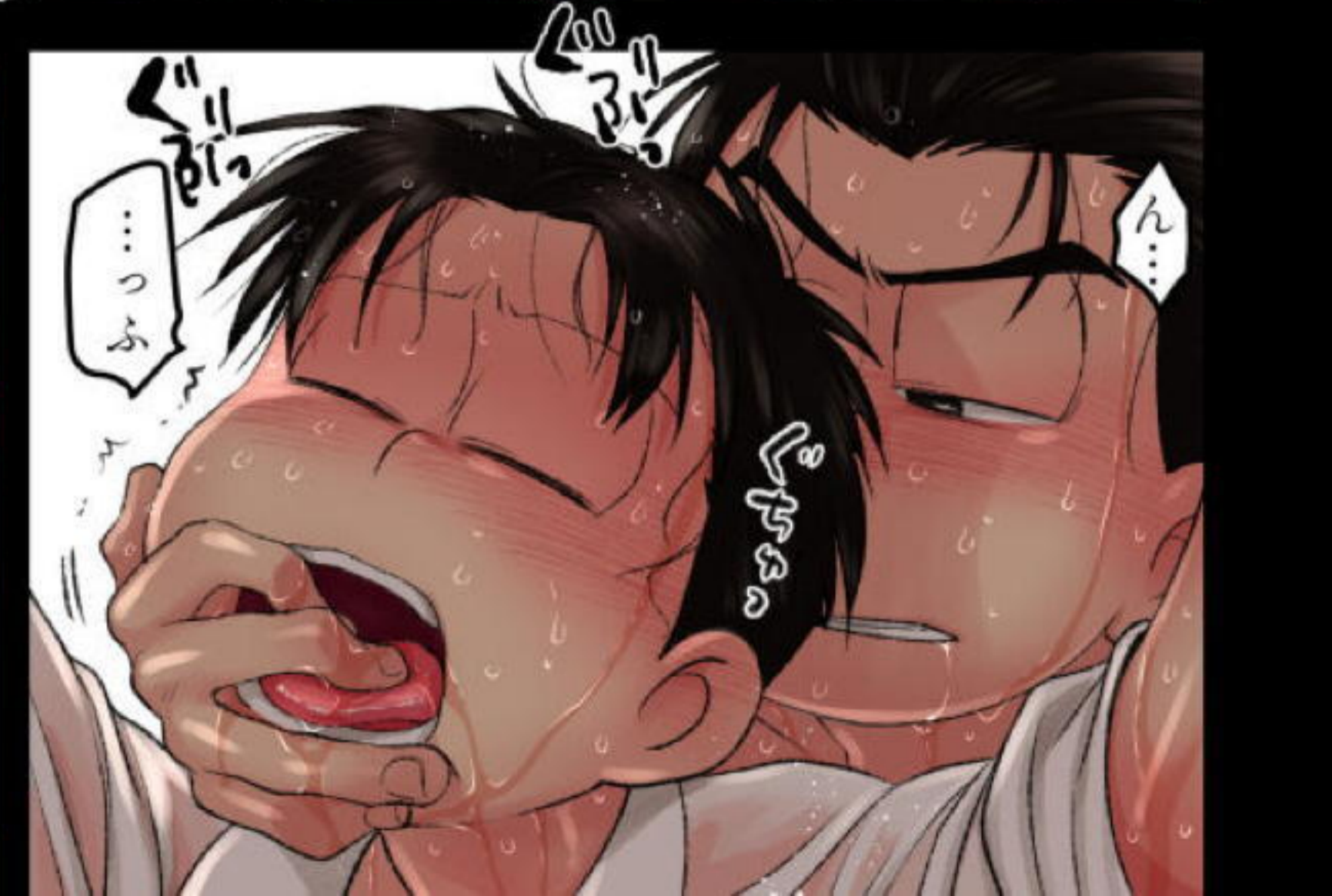
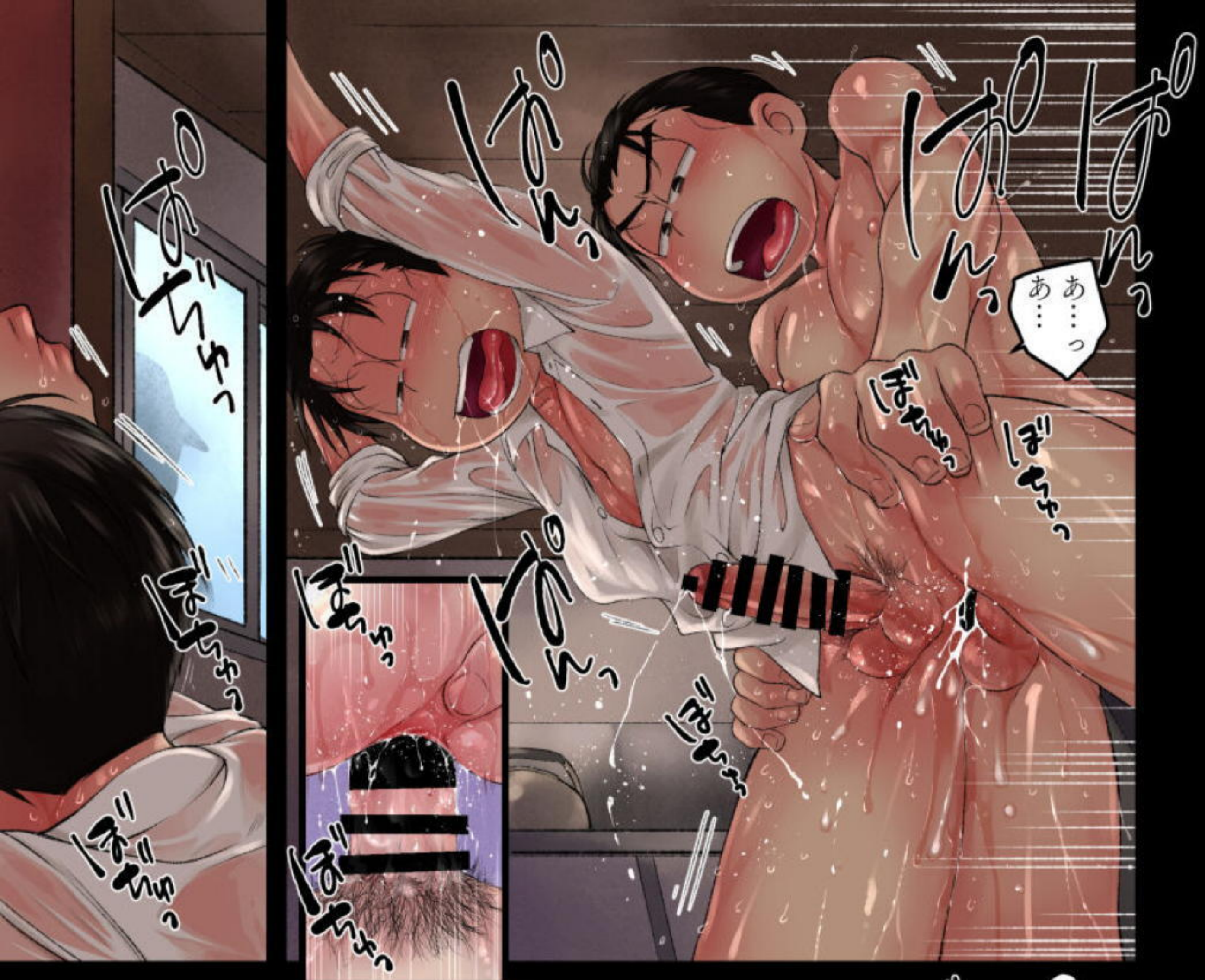
カチャ



あんがとねえ

あ...ああ  
すいません...







いおちゅっ

湿った肌の打ち付ける音と  
粘膜の擦れ合う淫猥な音

いおちゅっ  
いおちゅっ  
いおちゅっ

扉一枚隔てた向こうで  
聞き耳を立てているであろう  
配達員

いおちゅっ  
いおちゅっ  
いおちゅっ

いおちゅっ  
いおちゅっ  
いおちゅっ

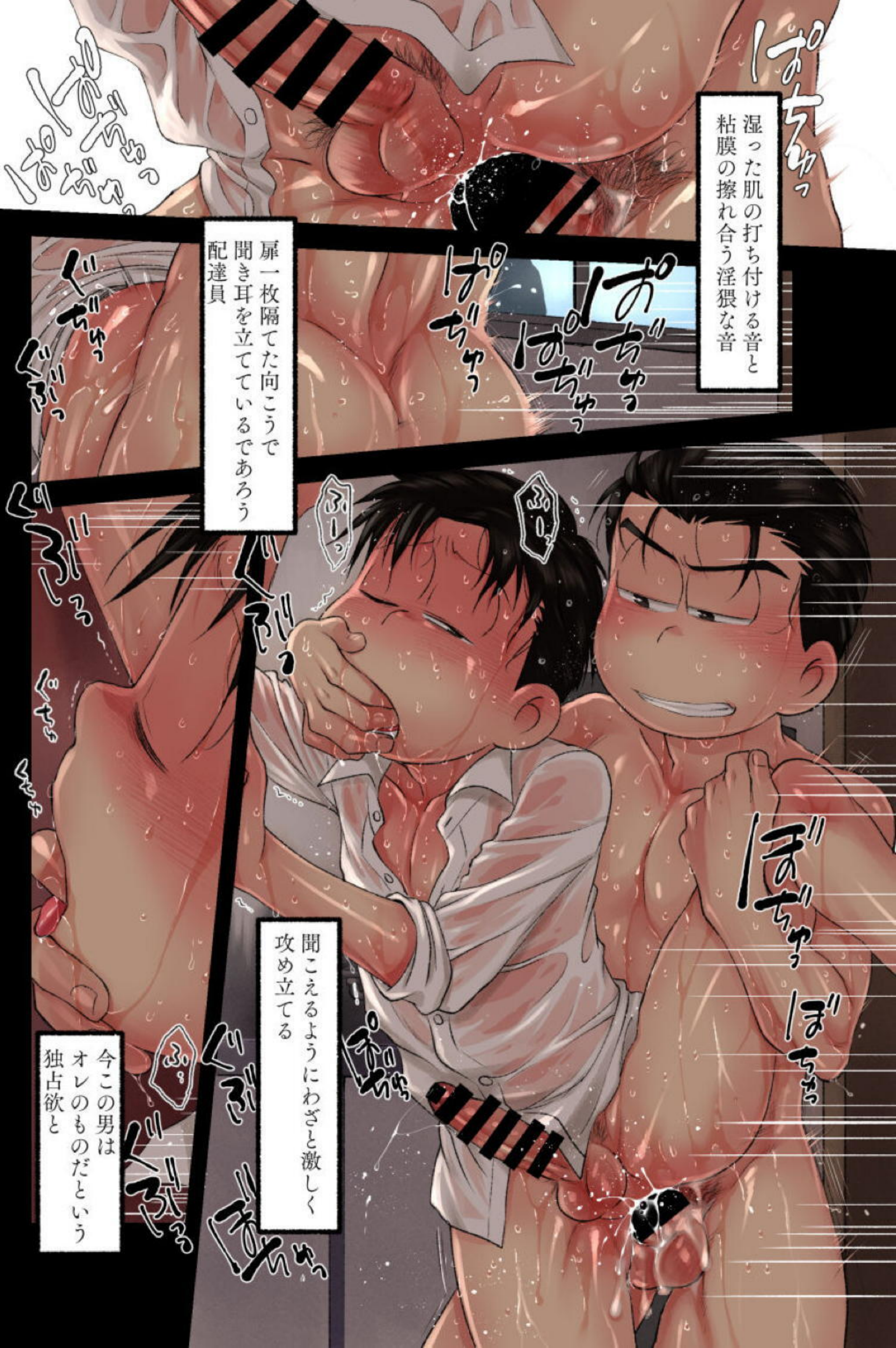
いおちゅっ  
いおちゅっ

聞こえるようにわざと激しく  
攻め立てる

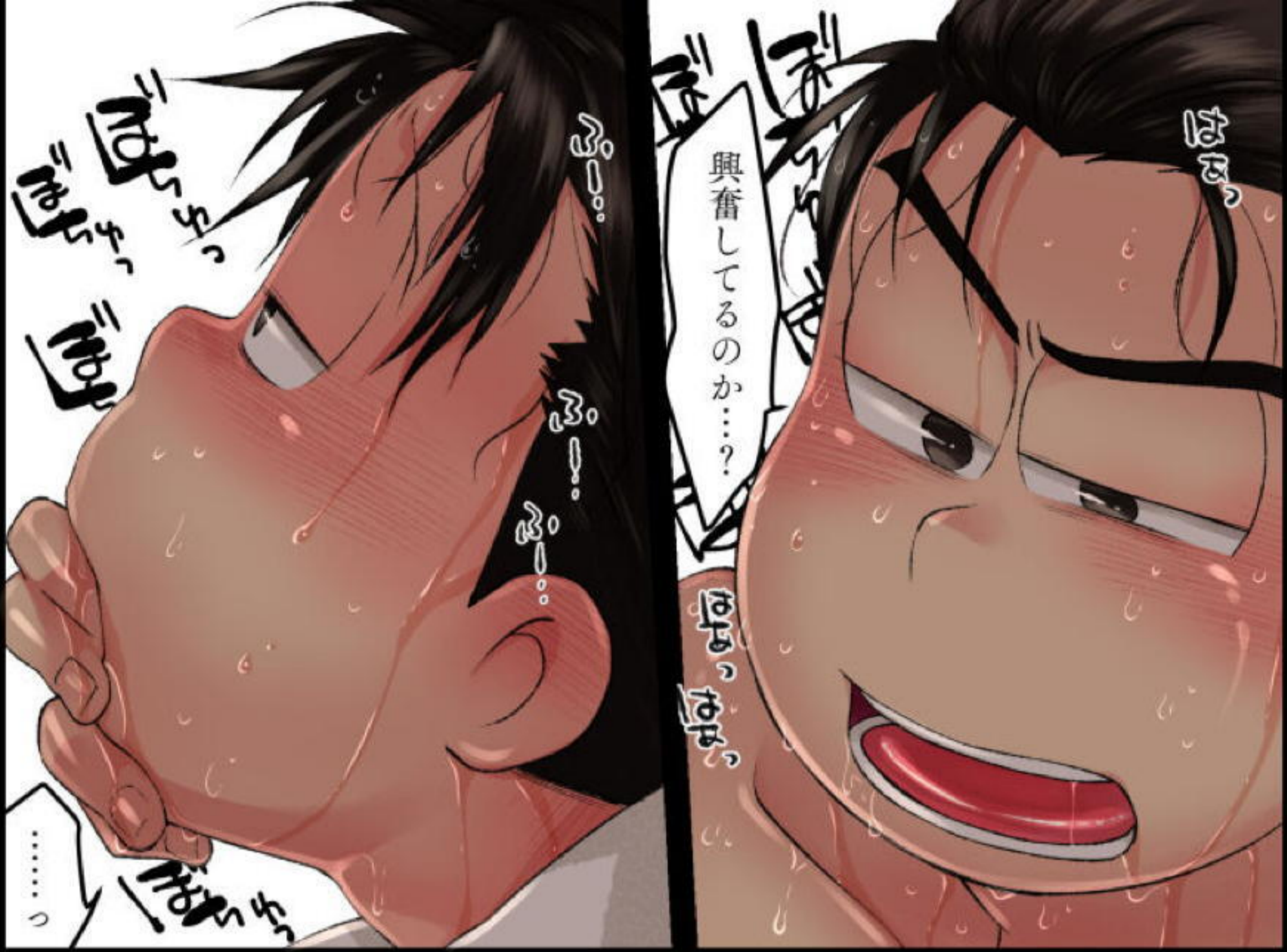
今この男は  
オレのものだという  
独占欲と

いおちゅっ  
いおちゅっ  
いおちゅっ

いおちゅっ



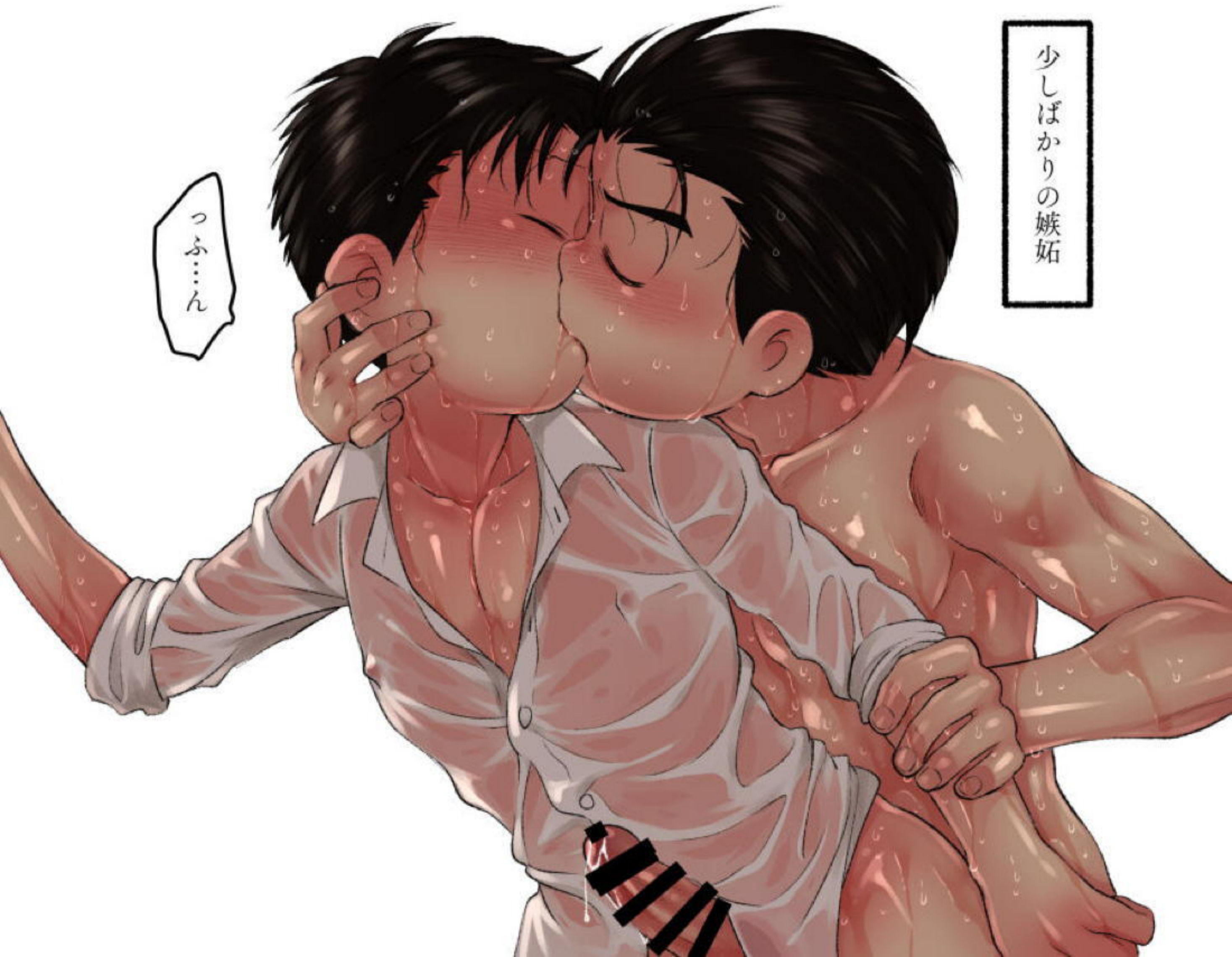




興奮してるのか...?

少しばかりの嫉妬

っふ...ん







羽織ったシャツが  
びしょしよりと濡れて  
大蔵の肌にとわりつく

暑さのせいだけでない汗を  
水溜まりになるほど滴らすのは  
オレの与える快樂だ

びしょ

ぐわっ  
ぐわっ  
ぐわっ

ぐわっ  
ぐわっ  
ぐわっ

はっ

びしょ



まだ足りないか？

びしょ!!?

びしょ





気が付くと  
配達員は姿を消し  
太陽は沈みかけていた





事が終わって  
2人ともまるで  
風呂上がりのような  
有り様で

おまえ強いねえ...



すまん...  
歯止めがきかなかった

いーよ...  
気持ちよかったし...



俺の方が先に  
降参したの初めてだわ



これどうするんだ  
もう使えないだろう

んー...古いし  
捨てるつもりだったから  
いいよ



薄い敷布団は  
押すと染み出すほどに  
汗を吸い込んでいた





それだけ濡れればな



きもちわる

オレは布団の下の畳が  
気がかりだったが  
大蔵はそんな事には  
お構いなしの様子だ



だから夏場の  
セックスは嫌なんだよね

冷房効いてても  
毎回びしょびしょに  
なるから後が大変でさ



ん？  
あー…まあ  
色々？



毎回って誰とだ？



悪びれず  
ほかの男との情事を  
思い浮かばされ

おい  
またやんの？

おまえのせいだ

オレは嫉妬して  
大蔵をまた組み敷いた

ん…